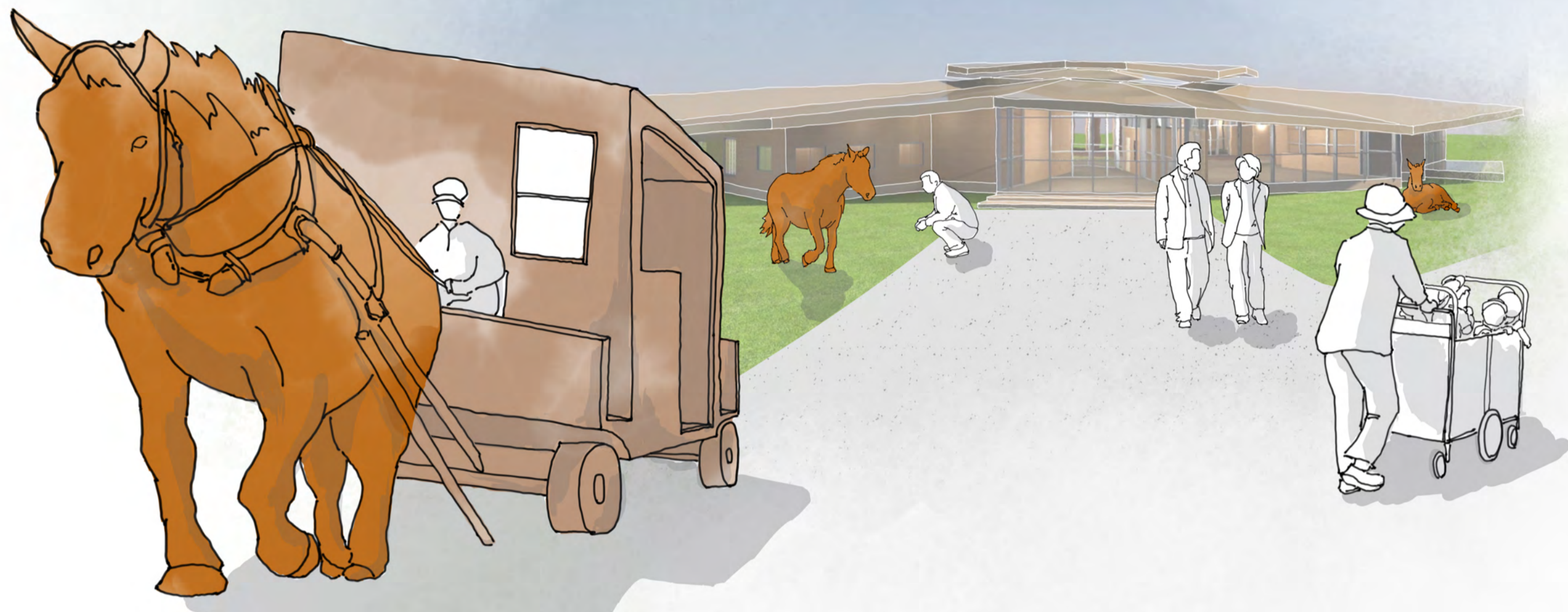


馬蹄の音が響くまち ~馬が運ぶ福祉のかたち~

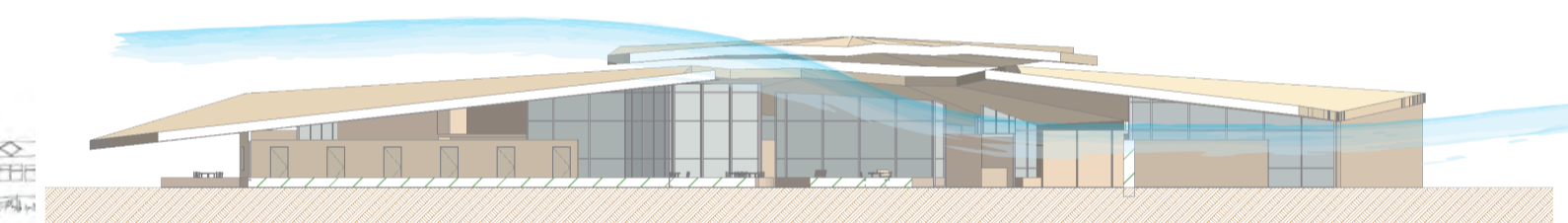


厨房からダイニングをみる

馬のリビングから馬房、セラピー室をみる

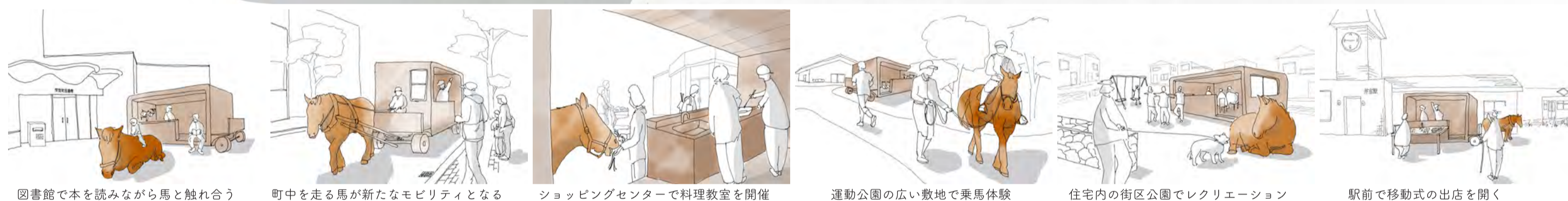


ダイニングから建物中央を見る



屋根の隙間から入り込む風によって、建築内部の馬の生活環境が維持される

A-A' 断面図



図書館で本を読みながら馬と触れ合う

町中を走る馬が新たなモビリティとなる

ショッピングセンターで料理教室を開催

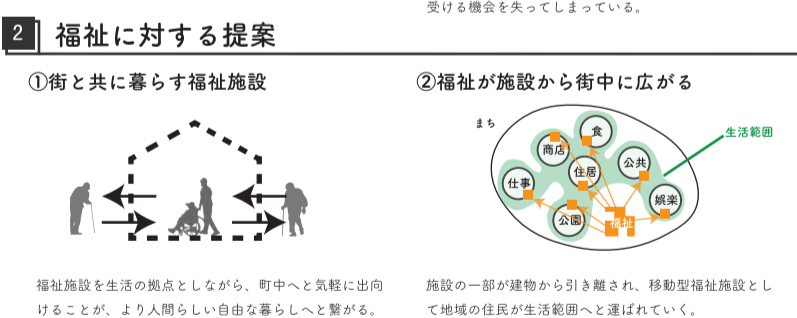
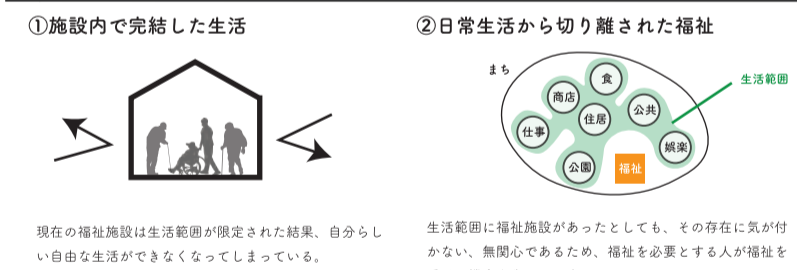
運動公園の広い敷地で乗馬体験

住宅内の街区公園でレクリエーション

駅前で移動式の出店を開く

馬の生活環境が維持される

1 福祉施設の現状



3 対象敷地



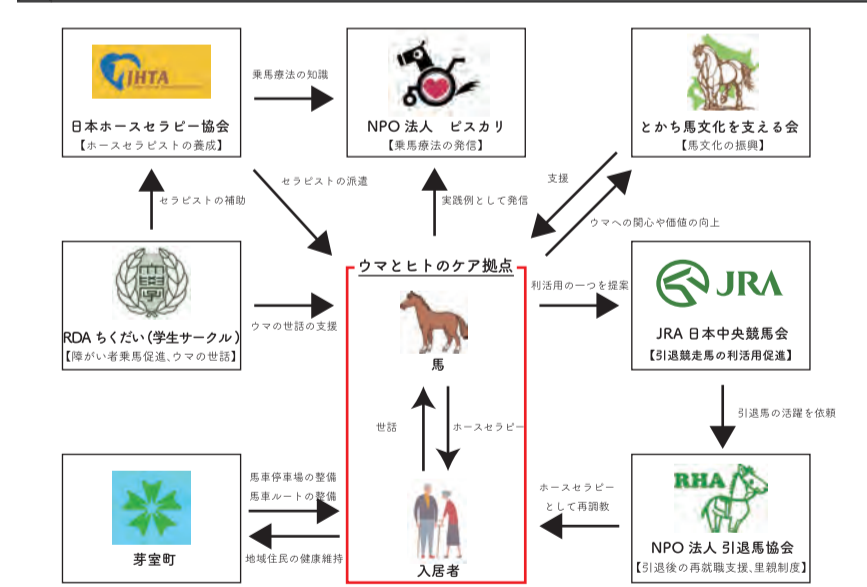
4 引退馬の行方

引退馬もケアが必要...?

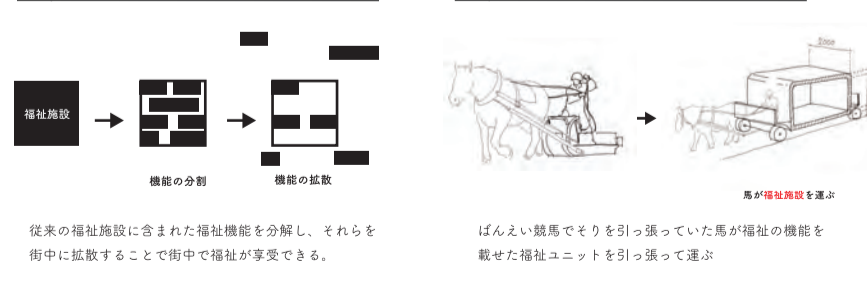
競走馬は年間5000頭ほど登録を抹消され引退していく。4~6歳で引退することが多いが、馬の平均寿命は20~30年である。引退後は、大きな資金を割いた一握りの活躍馬だけが繁殖馬としてのセカンドキャリアを歩むが、それ以外の多くは乗馬用として転用される。資金調達の困難から、殺処分されることも多くある。



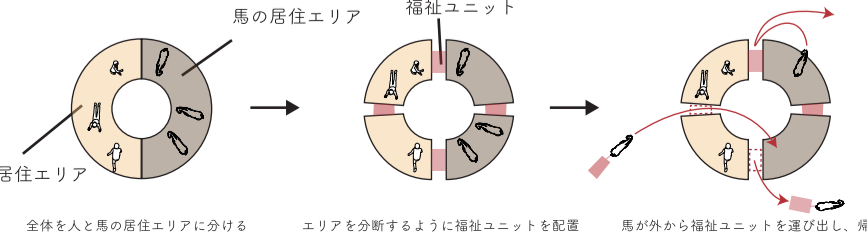
6 システム



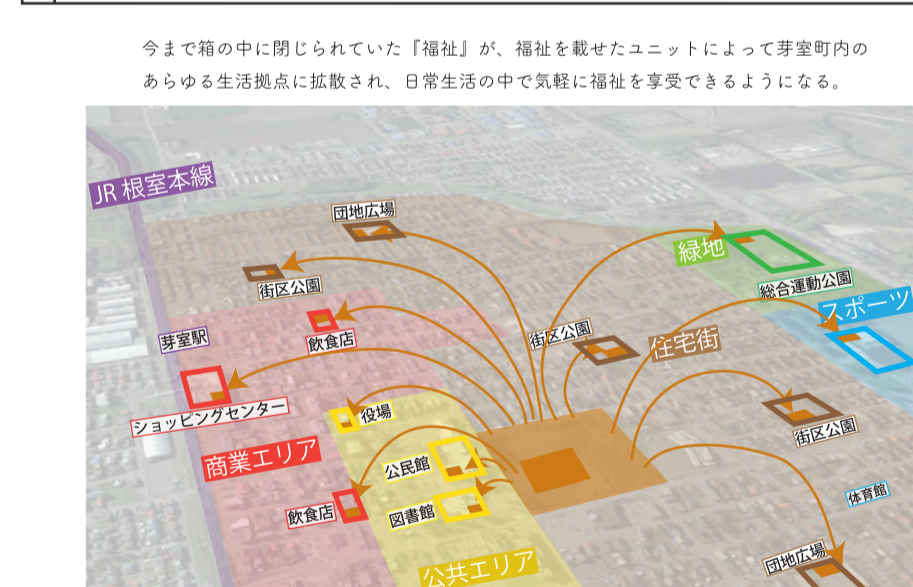
7 福祉の分解



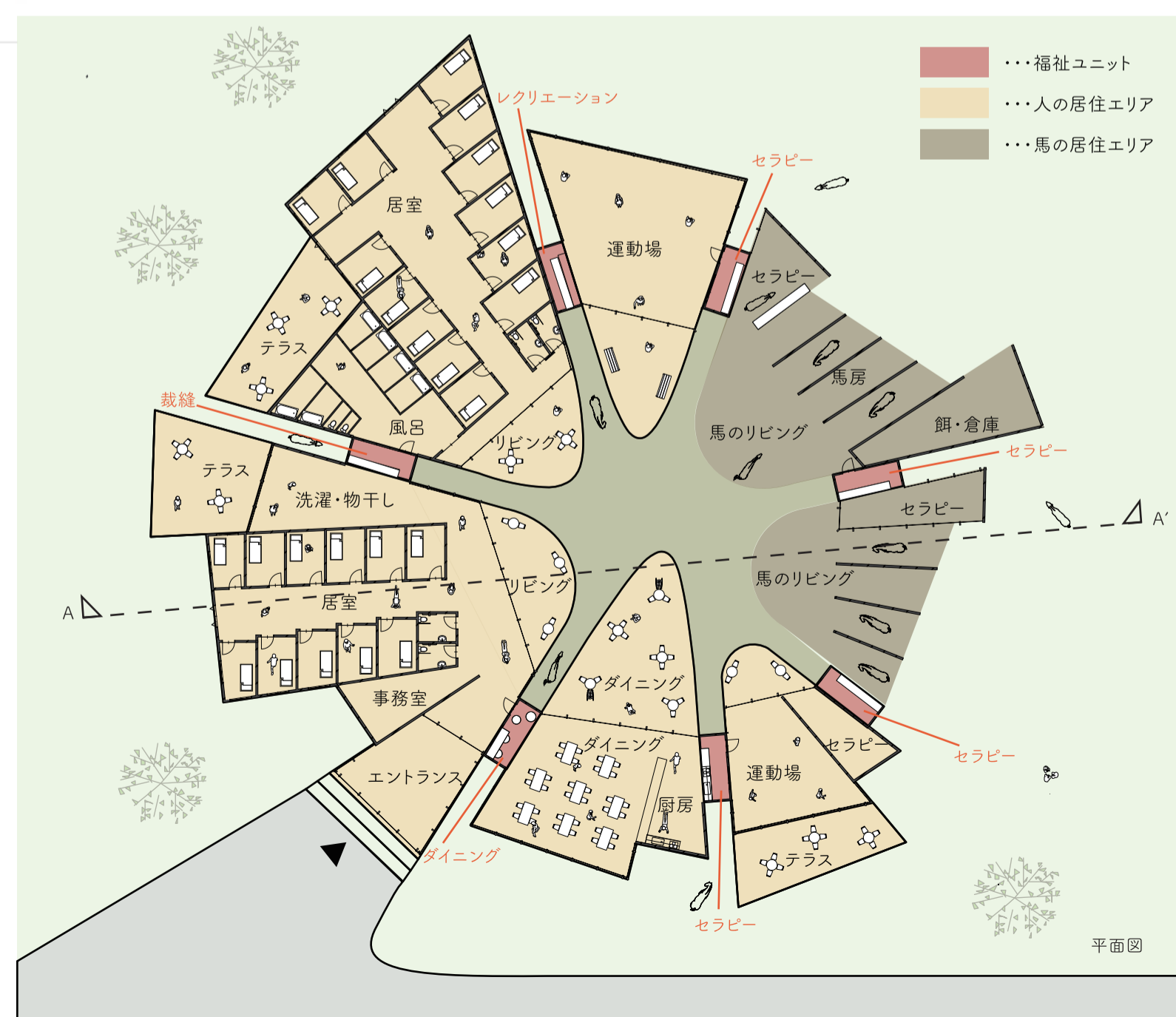
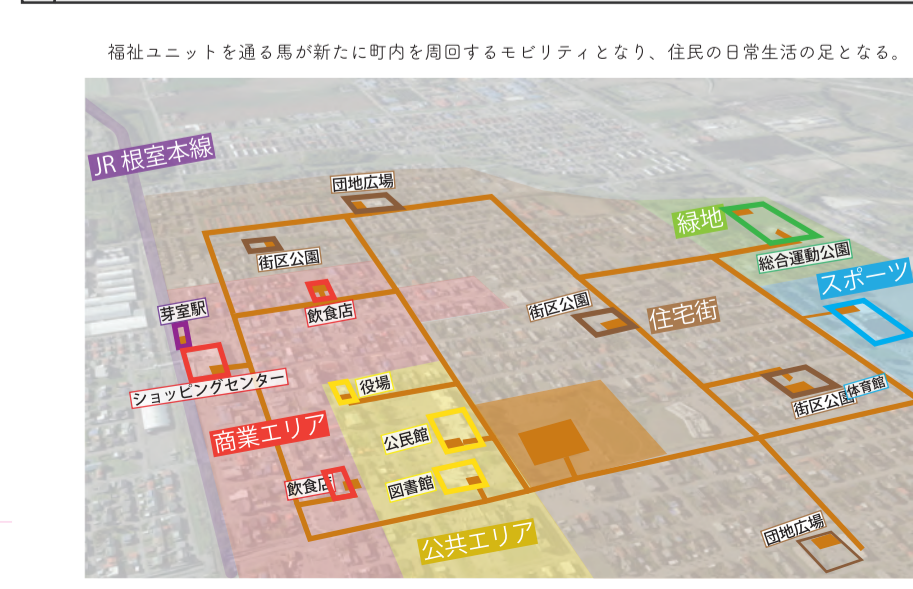
9 建築ダイアグラム



10 福祉を載せたユニットが町民の生活拠点に拡散する



11 福祉を乗せた馬が町内の新たなモビリティとなる



平面図